

ミツカン水の文化センター ホームページ コンテンツ紹介

自分でも開催！里川文化塾

<http://www.mizu.gr.jp/bunkajuku/know-how/index.html>

ミツカン水の文化センターが2011年9月から続けている「里川文化塾」。これまでの開催で培ってきたフィールドワークなどの体験型イベントのノウハウをまとめました。

開催当日に巡ったルートマップや見所を解説したガイドをPDFとしてダウンロードできます。それを片手に、実際にフィールドを歩くことで、その土地と暮らしの結びつきから「使いながら守る水循環」を体験できる情報をそろえました。ぜひご利用ください！

【公開中のルートマップ & ガイド】

- 01 **歩いて知るニヶ領用水**〈第5回里川文化塾 ニヶ領用水フィールドワーク〉
- 02 **日野・向島用水エリアを巡る**〈第9回里川文化塾 水の郷・日野を歩く〉
- 03 **荒川・岩淵水門周辺のまち歩き**〈第10回里川文化塾 船でゆく荒川〉
- 04 **源流から野川をたどる**〈第11回里川文化塾 野川を歩く〉
- 05 **浅川の治水と八王子巡り**〈第14回里川文化塾 大久保長安・八王子の治水とまちづくり〉
- 06 **雨水利用施設を巡る墨田区まち歩き**〈第15回里川文化塾 拡がる雨水利用〉



ルートマップとガイドは、基本的に里川文化塾を実施した時点の情報をもとに作成しています。ご了承ください

水の風土記「人ネットワーク」

<http://www.mizu.gr.jp/fudoki/>

〈水の風土記〉では、魅力あふれる独自の「水の文化」を培っている「人」や「事・場」をお訪ねして、そこで行なわれている研究や活動をホームページで紹介しています。機関誌の特集テーマではなかなか取材できない「人」や「事・場」を、軽いフットワークでお訪ねするのが特徴です。「人」をフォーカスしてインタビューするのが、〈水の文化 人ネットワーク〉、「事（こと）や場（ば）」を掘り下げてレポートするのが〈水の文化 事・場（ことば）ネットワーク〉です。〈水の風土記〉でご紹介することで、活動の輪がつながり合うことを目指しています。

随時更新していきますので、どうぞご覧ください。

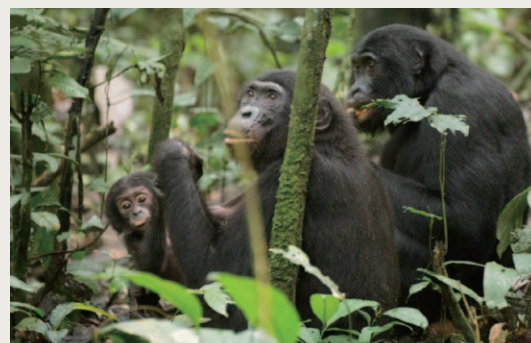
【最新インタビュー】

ヒトが「ボノボ」から学ぶこと ～コンゴ川を渡った平和主義者たち～



古市 剛史 さん
ふるいち たけし
京都大学霊長類研究所
教授

「ボノボ」という類人猿をご存じでしょうか。サル目（霊長目）ヒト科チンパンジー属に分類され、アフリカ中央部の赤道付近に広がるコンゴ盆地に住んでいます。チンパンジーとよく似た外見をしていますが、オスが好戦的なチンパンジーに比べて、性質はとても穏やかで争いの少ない社会をつくっています。実は、この両者を分けた要素の1つとして水（コンゴ川）があります。ボノボやチンパンジー、ゴリラ、ニホンザルなど野生霊長類の生態と行動を研究している古市剛史さんに、ボノボと水のかかわり、さらに平和的な生態とそれを可能にしている理由についてお聞きしました。



お知らせ

『水の文化』49号の記事について、物部川漁業協同組合さまから「水の文化書誌」p35本文3段目28行目以降、高橋勇夫著『天然アユが育つ川』（築地書館 2009）の記事部分について、「著者が提案しています『物部川漁協推薦 天然アユ 100% 物部川清流米』について、物部川漁業協同組合といたしましては、推薦をしたこと、農協さまと販売の検討をしたこと、および予定はございません」とのご指摘をいただきましたのでお知らせします。

ミツカン水の文化センター

水の文化 Information

■「水の文化」に関する情報をお寄せください

本誌『水の文化』では、今後も引き続き「人と水のかかわり」に焦点をあてた活動や調査・研究などを紹介していきます。

ユニークな水の文化楽習活動や、「水の文化」にかかわる地域に根ざした調査や研究がありましたら、自薦・他薦を問いませんので、事務局まで情報をお寄せください。

■ホームページのお問い合わせ欄をご利用ください。

<http://www.mizu.gr.jp/>

■水の文化 バックナンバーをホームページで

本誌はホームページにてバックナンバーを提供しています。すべてダウンロードできますので、いろいろな活動にご活用ください。

■里川文化塾レポート詳細版は、ホームページで

里川文化塾のレポート詳細版は、参加できなかった方も楽しめる内容です。今後の企画についても、順次ホームページでご案内します。ご注目ください。

メールマガジン配信中！

「里川だより」

ミツカン水の文化センターは、時期やテーマに沿ったさまざまな「水の文化」にかかわる情報を盛り込んだメールマガジン「里川だより」を配信しています。

「里川だより」では、機関誌の発行や里川文化塾の募集告知など、センターからの情報をいち早くお届け。1人でも多くの人にご覧いただきたいと考えております。

メールマガジンの配信をご希望の方は、タイトルに「水の文化センターメルマガ配信希望」と記載して「tokyo-office@mizu.gr.jp」までメールをお送りください。

ご連絡をお待ちしております！

編集後記

当時頑張って買った傘を忘れて以来、ずっとビニール傘だった。今回取材先で実に様々な傘に出会い、その機能と技術に驚き、デザインには楽しさを感じた。自分ではなかなか手が出ないような素敵な傘をプレゼントにはどうだろうか。大切な人に傘の下の空間もあわせて。(後)

晴天でも傘を差したがる子供を説得するのに苦心する梅雨どき。傘を差せば、雨の中をぬれずに自由に歩き回れる・・・子供の頃は、そんな傘の空間が持つ魅力を、無意識に感じ取っていたのかもしれない。次の雨天に息子と相合傘をして、更なる傘空間の魅力を教えようかな。(松)

幼い頃、お気に入りの傘を置き忘れてから「いい傘を買ってもどうせなくす」と傘にこだわることをやめてしまった。今は正直、出先で雨に降られる度に増える傘に辟易している。日本の素晴らしい傘文化を知った今、もう一度こだわりの一本を見つけ、そんな生活をぜひ脱却したい。(原)

何気なく使っているようで、意外とこだわりを持っている傘。日本人はさりげないこだわりを、たくさん持っているような気がする。そんな私も傘にはちよつとしたこだわりがある。梅雨明けまであと少し。お気に入りの傘と一緒に、この梅雨空を楽しみたい。(吉)

取材ではいつも晴れてほしいと願っているが、結構な確率で雨が降る。でも今回に限って雨はたった一日だけ……。せっかく買った傘も取材では役立たせる機会がなかったが、これからの梅雨の季節、積極的に出かけたと思う。(力)

子どもたちが羨ましいときがあります。例えば雨の日。大人と違って子どもは雨が大好き。長靴で水たまりを歩き、傘をぶんぶん振り回す——今号はそんなイメージの表紙にしました。そういえば、リサーチ先で見つけた長傘を買って「雨、降らないかな〜」と思う自分が……。傘のおかげで、ほんの少し童心を取り戻せたようです。(前)

ミツカン水の文化センター機関誌

水の文化 第50号

ホームページアドレス

<http://www.mizu.gr.jp/>

発行

ミツカン水の文化センター

〒104-0033 東京都中央区新川 1-22-15 茅場町中塾ビル 4F
株式会社 Mizkan Holdings
Tel. 03 (3555) 2607 Fax. 03 (3297) 8578

お問い合わせ

ミツカン水の文化センター 事務局

〒103-0014 東京都中央区日本橋蛸殻町 1-11-3 中銀 NM・5F
Tel. 03 (6264) 9471 Fax. 03 (6685) 7596

発行日

2015年(平成27)6月

企画協力 (氏名50音順)

沖 大幹 東京大学生産技術研究所教授
古賀邦雄 水・河川・湖沼関係文献研究会
陣内秀信 法政大学教授
鳥越皓之 大手前大学副学長
中庭光彦 多摩大学教授

制作

後藤喜晃
松本裕佳
小林夕夏
原田朱野
吉田奈保子

編集製作

前川太郎 編集

編集製作

中野公力 デザイン・撮影

執筆

佐々木 聖 (pp.6-9, pp.12-19)
手塚ひとみ (pp.26-28)
前川太郎 (pp.29-32, pp.36-37)
安田博勇 (pp.20-25)

撮影

大平正美 (pp.30-32)
川本聖哉 (pp.4-5, pp.12-19, pp.26-28)
篠田 勇 (pp.26-28)
鈴木拓也 (p.2, pp.36-37)
中野公力 (pp.44-49)
藤牧徹也 (p.6, p.20, pp.22-25, pp.38-43)

印刷

中塾総合印刷株式会社

※禁無断転載複製